

身近な話題などお知らせください！
情報をお待ちしています

大みそかのまちに鐘の音が響く

市内の寺院で除夜の鐘

寒波の到来で厳しい冷え込みとなった大みそかの夜、市内の寺院では除夜の鐘が鳴らされました。旧柳川藩主、立花家の菩提寺、黄檗宗福蔵寺（奥州町）では、午後11時30分から鐘が鳴らされました。鐘突きには、新年をすがすがしい気分で迎えようと、一般の参拝者も参加。1人1打ずつ間合いを置きながら突くと、鐘の音が、大みそかの夜空に染み入るように響き渡りました。鐘を突いた参拝者は、お寺から手のひらサイズのだるまを授かり、新しい年を迎えるため家路についていました。



参拝者が鳴らした鐘の音がまちに響いた

子どもたちに夢と笑顔運ぶ

クラスタープロジェクト「サンタからの贈りもの」

市職員でつくるグループ、柳川クラスタープロジェクトは12月23日、サンタクロースに扮して子どもたちにプレゼントを届ける「サンタからの贈りもの」を行いました。子どもたちに夢と思い出を作ってもらおうと企画し、今回で2回目。市内の19世帯、37人の子どもたちに保護者から託されたプレゼントを届けました。メンバーからプレゼントを受け取った西浜武の古賀和彦さんの長男将也くん(8歳)と奎哉くん(6歳)は、「欲しかったものがもらえてうれしい」と大喜びしていました。



プレゼントに喜ぶ将也くん(中央)と奎哉くん

自分だけの閻千代像を描きました

イラストコンテスト「わたしの閻千代」

第1回イラストコンテスト「わたしの閻千代」の表彰式が12月22日、御花でありました。このコンテストは柳川藩の初代藩主立花宗茂の妻、閻千代に関心を持ってもらおうと立花家史料館が作品を募ったものです。全国から応募があり、最優秀賞は柳川をたびたび訪れるほどの宗茂ファンという竹花伸子さん(神戸市)が受賞。「自分を強く見せる人生を選ばざるを得なかった、閻千代をイメージして描きました」と竹花さん。勇ましさの中に繊細さを兼ね備えた作品に仕上がっています。



もう少し女性らしさを出したかったと話す竹花さん

新年をナイアガラで祝う

沖端キャンドルカウントダウン

毎年の恒例行事となっている沖端商店会キャンドルカウントダウンが、大みそかから元旦にかけて沖端水天宮付近で行われました。大みそかの午後9時にキャンドル約500個が掘割沿いに灯されると、辺りは幻想的な雰囲気。年が明ける10秒前からカウントダウンが始まり、日付が変わると同時に約160mのナイアガラ花火に点火されました。見物に訪れた人たちは、一斉に「明けましておめでとう」の歓声と拍手で新年を祝いました。



沖端の掘割を彩ったナイアガラ花火

柳川藩を築いた2人に迫る

第19回歴史文化講演会「戦国立花記」

柳川市史編さん委員会と柳川古文書館が共催して12月23日、あめんぼセンターで第19回歴史文化講演会「戦国立花記」を催しました。今回の講演会は現在、古文書館で開催中の企画展「立花家と家臣団」に関連して行われたものです。愛知大学の山田邦明教授が「戸次道雪の生涯」、九州大学の中野等教授が「宗茂を支えた家臣達」をテーマに講演。会場を埋めた約160人の受講生は、メモを取りながら熱心に話に聞き入っていました。



史料をもとに道雪の生涯を講演する山田教授

俳句

夜のうちみ海苔摘み船の音ひびき

今月の入選作品・課題「年用意」海苔

田中清美(中島)

- 初摘みの海苔のとろける口の中
 - 食卓も海苔の香りに包まれし
 - 寒い中海苔をつみみる夫婦舟
 - 玄関の格子戸磨き年用意
 - 風呂トイレ磨き清めて年用意
 - 年用意人の情けながら年用意
 - 宅急便サインもせわし年用意
 - 海の上見渡すかぎり海苔の簞
 - 年用意知らん顔して摘み食い
 - 海苔採りやエンジン響く船着場
 - 生業を夫婦で海苔に生きた姉
 - パリッとした海苔で一日頑張れる
 - 海苔船の岸に並びて潮を待つ
 - お返しに自慢の海苔を送りけり
 - お多福の大きなお面年用意
 - 図書館の本も返して年用意
 - 子らの手も借りた昭和の海苔仕事
 - 妻なりに知恵出しきりし年用意
 - 引潮に海苔網天に晒しけり
- 【句評】海苔採りの季節になれば沖合の海苔ひびで有明海は黒く彩られます。この黒さも干満の潮に濃淡がつくことに気付くのです。清崎俊郎さんの『海苔の浜潮さして来し音のあり』があります。平明な描写にただただ敬服するのみです。
- 本月の清美さんの句。夜海苔摘みの感じが上五の『夜のうちみ』に集約されいい句に。

◆選者の句

寺町をひとめぐりして年用意

鬼郎

俳句を募集しています。選句者は大曲鬼郎さん。2月の課題は「一臘梅一寒鴉」です。入選作品は2月15日号に掲載します。

●応募方法 俳句と明記し、自作、未発表の作品(※1人3句以内)に住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクスまたは直接、柳川庁舎企画課広報広聴係(☎77・8425、FAX74・5520)へ、1月31日(※必着)までにお送りください。